活躍するお年寄り

津奈木

発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話（代表）311番
編集　編集委員会
印刷所　旭印刷所
電話（水俣）③4101番

身軽なゲートボール

今年は、芦北郡のゲートボール大会で上下門チームが優勝し、二位も津奈木でした。健康目的で体力もつきました。

スポーツ

身体の衰えは、足腰から。健康を保持する意味から、毎日少しづつ適度な運動を楽しんでやりましょう。

町内最高長寿者
福浦の福山テヨさん。老人優等生欄で紹介のとおり元気百%。96才。

文化

津奈木に伝わる、遊びや、民話を語られるお年寄りの学習会。
なごやかな雰囲気に頭の回転も快調ですよ。

生活の中にほほえみを!!

ゲートボールの集いには、笑い声が絶えず聞こえてくる。

おめでとう結婚五十年

九月十五日、敬老の日に、表彰状、記念品が贈られた。

史談会

山鹿の史跡を視察

史談会員約二十名は去る七月二十八日、山鹿市古墳視察一日旅行を実施しました。
正午前山鹿市に到着した一行は、山鹿市教育委員会の特別のお計らいで、八木田達博氏の案内の下に、熊本県指定史跡長岩横穴群や、鍋田横穴古墳群等を視察し、帰路は菊池水源を見学して、夕刻無事帰町した。

（写真右）鍋田横穴史跡を見学中の史談会。

スイミングクラブの活躍

子供カッパ　夏のおよぎっぷり

本町スイミングクラブ（塚本宏教諭指導）は、夏こそ我がシーズンとあって、毎日、朝早くから塚本先生の指導を受け練習に励むとともに、六月二十六日、熊本市城内プールで開催された。熊本選手権水泳競技大会を始め、十指に余る県内各種の水泳大会に出場、津奈木スイミングクラブの意気を大いに発揚したが、全県的大会の一位だけでも次のとおりでした。

○山崎　里　美（五年生）
熊本選手権水泳大会—百米平泳。第九回九州学童通信水泳記録会（七月四日、八代プール）—五十米平泳、百米平泳（全九州では三位と二位）。

○下り藤　強　美（四年生）
同学童水泳大会—四年生以下五十米背泳。

○橋　口　信　二（五年生）
同学童水泳大会—五十米自由型、百米自由型。

○千々岩　和　哉（六年生）
同学童水泳大会—六年生五十米平泳。

○女子二百米メドレーリレー（大園、山崎、溝部、下藤）

○男子二百米リレー（高木、福山、塚本、福山）
郡市の大会の一位は余りにも多いので割愛せざるを得ませんでした。

童話発表会

本町より3名出場

昭和五十一年度、童話発表会、芦北水俣地方大会は、去る七月三十一日、水俣市公会堂において各市町の代表それぞれ三名ないし六名、合計十八名出席し発表の技を競った。
流石に選抜された各市町の代表だけあって、皆すばらしい出来ばえだった。
特に本年は低学年のできが際立って優秀であった。
津奈木町からは、赤崎小二年、佐々木和。津奈木小四年荒川隆弘。平国小六年、浜田良彦君等が出場。県大会への出場権こそ獲得できなかったが、皆優秀な成績をおさめた。

生活を楽しむ

レクリエーション

おとしよりとしての適当な運動やレクリエーションを行なうことは、生活を楽しむためにきわめて必要なことです。
しかし運動の目的は若い人たちのようにながすといったものではなく、あくまで衰弱を防いで、現状をよく維持するという意味で行うべきでしょう。
一～二週間ベッドに絶対安静を続けると、おとしよりは筋肉の運動能力が急速に衰えますし、また、骨からカルシウムが減少し、組織からは窒素が消失するといわれています。

興味をもって全身を動かす

おとしよりの運動は急激なものであってはなりません。また、あまり力を要するものであってもいけません。運動の強さは中程度のものがよいでしょう。それとともに全身を使うもの、そして毎日行えるもの、しかも、ある程度興味のもてるものが望ましいのです。一人でできて、ときには他の人と興味をもって、しかも自己のペースで行なえるゲートボールなどが最もよいわけです。そのような意味から、おとしより向きの体操など、その人のおかれた環境や体力に応じて選べばよいでしょう。

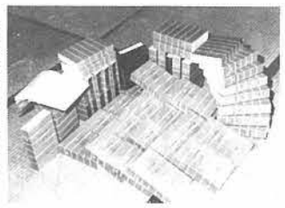
内蔵精神よりも影響

そうした適当な運動は、循環器の機能や食欲などに有益な効果がありますし、老人のややもすれば無為になりがちな生活に活力を与え、精神的にもよい影響をもたらします。
（浜本）

寄贈御礼

真野のり子さん

大泊出身、真野久次郎さんの四女で、現在神奈川県平塚市において働きながら大学に行っておられる、真野のり子さん（二十二才）より、『日本文学全集四十五巻』（新調社）を町立図書館に御寄贈下さいました。のり子さんは、昼間は病院に勤務され、夜は、東海大学で勉強されています。この篤志に対して謹んで厚く御礼申し上げます。



（写真右）真野のり子さんより贈呈の日本文学全集45巻。

おしらせ

町内各学校の体育大会（運動会）が次の期日において開催されますのでお知らせ致します。

津奈木中学校　九月二十四日
津奈木幼稚園　九月二十六日
津奈木小学校　十月三日
平国小学校　十月三日
赤崎小学校　十月十七日

肥後狂句

堀双岳選

着順
よかった、台風は途中でつんきえた。　開田行男
油断して、又さでこけた本試験。　竹永笹岳
よかった、うぶ声聞いてうれし泣き。　緑助
油断して、焦げ鍋みがきにあくしゃうつ。　わらび
よかった、流石柔道は金メダル。　双岳
油断して、種西瓜はひっちぎられ。　開田行男
よかった、百姓の嫁に来てくれて。　双岳
油断して、自慢の松ァきゃ枯われ。　双岳
よかった、金婚式まで生きられて。　双岳
よかった、四人目ようよ息子ン子。　拙者

次題

後生願い。つんぶるい。
計四句以内。十月末日まで中央公民館、館報編集部へ
新入歓迎

海に浮かぶ赤崎小学校

落成式 9月21日

日本でもただ一校だけではないだろうかと考えられる。全国でも珍しい海上校舎

赤崎小学校が完成した。

赤崎小学校は今年で創立百二年目の歴史を刻み、地域と共に育ち数多くの卒業生を巣立たせた旧校舎の労を心よりねぎらうものです。

工事期間約一年を経て近代的技術をもって新築された校舎には、いつのまにか〝アクア・スクール〟と言う名称で呼ばれている。

先日、写真を主にした大型月刊紙「朝日グラフ」の記者も訪ずれ同校の取材が行われた。北は北海道から、南は沖縄まで同校が紹介されるのも間近いことでしょう。

校舎面積千五百三十四平方メートル、運動場も広くなり、児童達も伸び伸びとしています。

また、赤崎小と似た環境にある各地からの視察等も増すことでしょう。

〔写真上〕上からみたアクアスクール赤崎小学校。

二十四本の足

重量四千百トンの校舎をささえているのは、直径、二・

〔写真右〕赤尾島から望む新校の全景。

＊　＊　＊

六メートルのコンクリート脚中には鋼管がありから最高三十六メートルまで達しているのもあり、見るからに、たのもしい足です。

私設 老人優等生 (七)

福浦　福山テヨさん

去年から二年連続、津奈木の最高長寿者である福山テヨさんは、明治十三年三月十一日の生まれで、正に九十六歳六ヶ月と言う訳である。

「年をとると視力がだんだんよみがえるのでしょうか」と

家族の方が言はれたが、めがねなしに、つい先程まで木綿針に糸を通していられたそうで、数年前までは近所の針仕事にまわっていられた……と耳もほとんど、かわりがなく歯も丈夫で、三度三度の食事もすききらいがない。近所に遊びに行っても、十二時にはきちんと帰って来られる。

お婆さんの腹時計は、安ごろの時計より正確らしい。

じっとしていることが嫌いで、畑に草とりに出る、薪や杉の葉をたばねる、気がむけば海岸に出て貝を堀る。隣近所を訪問することも、楽しみの一つらしい。夕方家族の方が山、畑から帰って来られるとチャンとおふろがわいている。

おふろわかしも、お婆さんの日課とのことである。

ほゝえましいことは、時折り孫さんの漫画の本を出して読みふけられるそうで、そんな時のお婆さんの顔は明るさいっぱいとのこと、時には新聞にも目を通しソロバンも、まだ丈夫らしい。選挙の時でも代筆をすすめても「自分で書く」とのこと、こんな話をきいていて、田舎には稀なインテリー婆さんのように思えたが、若い頃、補習科を出て、熊本で五年家事見習やハタ織裁縫等勉強されたとのことで、なるほど……と思った。

お婆さんは隣町の湯浦の方で福山家に嫁いでから約三十年ご主人と二人で帆船に乗り木材や薪（ニブ）を積んで、高橋や島原、大牟田方面を行き来していられたそうで、ずいぶん恐ろしい目にも会ったと言われる。つい先日の十七号台風の折若い人達が、もう来るくゝと騒がれると、お婆さんが、この雲行きで台風が来るもんか、とたしなめられたそうだが、永い体験と生活の知恵の然らしむところか。

お顔を見ても、お話しして も又日々の生活振りも、九十六とは思えぬ若々しさが、にじみ出ているが、これは物事にこだわらず、気のむくままに然も適当に体と頭を働かしていられるせいのようで、家族の方がそれを認めていられることも又原因の一つではなかろうか。

「年寄りは気のむくようにさせろ」というのが年寄り優遇法の一つときいていたが、正にそうではないかと思った。

老友会連合会長　永松登弥

中近東・東南アジア訪問記 (三)

林田和幸

二月三日から八日間、インド国を訪問した。同国の教育社会、産業、経済等についてレポートしていますが限られた紙面では一つ一つのテーマで書くことができないので、印象記と致します。

日本の九倍の面積を持ち、北にヒマラヤ連峰をひかえ、その南にガンジス川とブラマプドラ川によってつくられたインドスタン平野があり、その南のインド中央一帯にデカン高原がひろがり海に至るこうした地形の雄大な変化とともに、気候、自然環境も大きく変化し社会構造や生活環境も多様性に満ちている。人口は六億の国です。

彼らの生活の中で最も重要な位置を占めているカースト（身分を四つに分ける）制度については、私たちが考えると不合理に思えることだが、彼ら自身これに従うことが当然であり、古来数千年にわたって継承されてきた一つの社会秩序として考えているようです。これが、社会の進歩をはばむ大きな原因ともなって個人の自由指針が得られないのが現状のようです。

日本から寝起きを共にしたM・アルビ（インド人）はカーストの事はあまり語ろうとせず、現に船の中でも七つ年下（二十一歳）の人が二十八歳のアルビに毎日のように命令し、カーストが用いられていたようです。

飢えに苦しむインド

街の中は人、人、人

コレラになりたくなかったら絶対に水を飲むなと注意されボンベイに着く。気温五十二度で太陽が一層大きく見える。湿度が低い関係で汗はさほど出ないが喉が乾く。水は飲みたいがコレラの土産は重たいのでやめることにした。

かげろうのたつ市内とにかく人が多く、道中人間だらけで蟻の行列のようだ。街中で売っている香辛料の臭いが鼻をつき、民族衣装のサリーのあざやかさが目につく。

雨が降らないので露天商が多く、商品は話し合いで価格が決まる。外国人には五倍位の価格をふっかけ、いらないと言うと、すぐ半分価格になりそれから商談開始で、そのやりとりがなかなか楽しい。大人の大半がはだしで子供達は上半身裸が多いのにビックリする。スリランカの国同様、物ねだりする子供が多い、左手で腹を押え口をあけ右手を差し出す。可愛そうになり一人にやると他の子供達がワーと寄って来る。**痩せて目だけが異様に光っている。教育も受けられず、餓に苦しみ、**栄養失調で下半身が動かない子供を目前にして、できることならこのまま留まり、ボランティヤとして援助したい心境にかられた。

〔写真上〕インド、ボンベイ市内での道路工事。ほとんど手仕事である。

かあちゃん阿蘇に集う

セミの鳴声が一層暑さを増す七月二十日と二十一日の二日間、私達、婦人会は阿蘇青年の家において研修会を開催いたしました。

雄大な高原に建つ青年の家。「ヤング」の頭文字を取ったY字形の建物に案内され各自の部屋に落着いたのも束の間、すぐ講議室へ。講師は木戸文子先生の「おなごの幸せを得ずして家庭の幸福は成り立たない。おなごの幸せが先だ。」というお話に、帰りの車中で反論があったと聞きましたが、「主婦は常に前向きの姿勢で生活せよ」という意味を強調されたのであって、つまりは主人、年寄り、子供を大切にすることにつながるのだと私は感じました。

予定の時間におくれたために講議半ばで終ったことを残念に思います。火曜と土曜しかないというキャンドルサービスは、阿蘇の聖火を各団体が囲んでのダンスやゲームのひとときですが、自分の年も忘れて若い人達と興じているうちに、おしゃれより井戸端会議よりも、もっと人と人の和の大切さを身にしみて感じました。聖火を前に誓いの言葉も力強く、明日への希望を託したキャンドルサービスでした。翌日は台風一過、すばらしい高原の朝は牧場の草をはむ牛と共に、朝の集いから始まります。規則正しい団体生活、他団体とのさわやかなセルフサービスの食事等々、今迄にない貴重な体験でしたが、皆さん、チャンスがあったら一度は青年の家に行こうではありませんか！雄大な阿蘇の大自然はチッポケな心を広くし人間性を養ってくれます。機会があったら何度でも行って見たいと願っているのが今の偽りのない心境です。

川内　北岡美智子

〔写真上〕阿蘇青年の家にてオリエンテーションを受ける婦人会。

津奈木民話 (一)

佐々木緑

辻の大山尉孤

津奈木太郎の峠から西に連く走る山脈は、薬草岳に連その中程の芒の原を辻と云う。北西の方は下り尽きると紺清の天草灘、南東の方は、大山小山、その迫々に点々と草深い部落が見える。

海側と山側とを結ぶ細道が一本、この辻の峠を越えている。里人は是処を辻の尾根とよぶ。

辻一帯は見渡すかぎり芒の原、狐族の住むには屈強の場所である。この附近に住む狐族の長が、大山尉狐と云う大古参の雄狐で、威厳が備り貫禄充分で、その名にふさわしい名狐である。

両頬の下から腹は真ッ白、尾は太く長く銀色に輝いていて、頭から背にかけて褐毛が燃ゆるが如き色を放っている。大山尉は化術にもたけていたので、名月の夜などは各地からそれぞれ名の通った狐の訪れが絶えなかった。

先づ肥前の黒ベこ、薄月の小坊主、肥後平のおさん嬢、宇土陣のすぐりわら、柳迫のおとら嬢等である。

この狐達が訪れて来る時は、その鳴き声と方角によって、その用向きが分った。即ち南はよろこび、北は無精、東は火事、西は大時化と云う。

この尾根から小半里も下った山手の部落に太右ェ門と云う親父が住んでいる。酒好きでいつも鼻の頭が赤くなっている。元々悪気のない親父だがよく人をからかったりして悦に入ってる。尾根の大山尉とは、もう古い古い馴染みである。太右ェ門は毎年茅が秋枯れせぬ前に株刈りのため、尾根まで登って来るのである。麦と粟ばっかりのホラ飯、ドブロクの入った一升徳利、おかずにする大羽鰯を十匹余り、一括りにして大鎌の先にぶら下げ、それをかついで汗をふきふき登って来る。

今日も大山尉が、ちゃんと俺が来るとば知って待っとる、鰯どん焼ァて喰わしゅうたい、太右ェ門は心から楽しいそうである。

若人の集い 県総合青年祭

県下の若人達が一堂に集う、県総合青年祭！に我が町からも、多数の青年達が参加した。陸上、バスケットバレー、バドミントン、女子文化、生活等と、総勢三十七名の役員、選手団。

昨年準優勝の女子バレーチーム、男子一五〇〇Mの新立広君、今年こそはと、闘志を胸に……

スポーツ、文化等を通じた若人達の集い！二日間、何処そこで、若者達が輪をつくり、楽しく語らい合う、実にすがすがしい姿が目についた。しかも、民泊という、地域の人達と語らい合う場も経験できた。各々、楽しく貴重な思い出をつくることができた。

本町の青年達も、各競技に大奮闘した。剣道の個人の部大将戦での日野昇君の優勝を筆頭に、新立広君の男子一五〇〇M第二位、女子バレーのベストエイト進出、県下の青年達を相手の健闘は、実にすばらしいものであった。だが、まだレベルの差があり、今後の奮闘が待たれる種目もあった。

〔写真上〕勝利のVサイン。総合3位の剣道部の面々と個人優勝日野君（女性の左横）達。

歳時記 (秋)

〔写真上〕秋を告げる柿。

秋立つというばかりでも足かろし（一茶）

梢まで来て居る秋の暑さかな（支考）

⊙敬老の日の一日

九月十五日　敬老の日

本町青年団も、この日に、各地区において、敬老の日慰安会を催した。平国支部、赤崎、千代、FF、大泊の各支部、県総合祭終了後、休む間もなく、準備に取りかかった為満足なものではなかったと思う。がしかし、皆、それぞれ、頑張り、楽しい一日を老人の人達に過してもらったと思う。

⊙平国地区に青年の館建設決定される。

この度、平国地区の青年集会場の建設が、先の地区常会において、決定されました。

戦後、当時の青年達だけの力で建てられ、青年の館として、永く、青年達の心の寄り処であった旧青年小屋が、取りこわされ、自分達の城をなくした青年達は、地区公民館を仮の住いとして、数年間、活動してきた。が、過疎化の波に洗われてか、城を失ってか、活動にも、ひところの華かさがなくなってきました。

明日の郷土を担う青年達がたくましく、育ってほしいと願う地区民の人達の望みが、このような形で現れたことに平国の青年達も感謝しています。青年達だけではなくて、婦人会、老人会、子供会、地区の小さな会議等に、どしどし使用し、平国地区の、心の寄り処となることを望みます。

連合青年団長　野崎憲章